



No. 121 2021. 8. 17

明石市コミュニティ・スクールだより  
人をつなぎ 未来をつなぐ 明石のコミュニティ・スクール

コミコミスクス

KOMIKOMISUKUSUKU

明石市教育委員会直営局学校教育課



コミスク TwitterQR

## ネットの中にも面白い情報が

この頃、以前よりもネット上に教育改革に関する情報が増えてきたなと感じます。GIGAスクールがスタートしたこともあり、ICT 関連の情報は多いですが、産業化時代の教育システムの「教える」学校システムから、未来視点での生涯学習社会に向けて「学ぶ」学校システムへの転換を示唆する情報が多いように思います。そうした情報を校内で、また保護者や地域の中で共有していくことが未来視点でこれからの学びのデザインを考える上で必要なのではと考えます。そこで最近見つけた情報をご紹介します。

### 【情報①】

教育界のトップランナー工藤勇一氏にインタビュー  
～学校の教室は日本の縮図―学校が変わらなければ日本は変わらない～

<https://www.blog.studyvalley.jp/2021/08/12/souei/>

### 【情報②】

東洋経済 education×ICT 関連

ここから3年が勝負、1人1台端末「日常化」のコツ

カギは学校のコミュニケーションのデジタル化

国際大学グローバル・コミュニケーション・センター准教授 豊福晋平氏

<https://toyokeizai.net/articles/-/443458>

### 【情報③】

東洋経済 education×ICT 関連

今変わらなくて、いつ変わる？ 学校教育最前線 教育研究家 妹尾昌俊氏

[https://toyokeizai.net/feature/ict-edu/series/education\\_frontline](https://toyokeizai.net/feature/ict-edu/series/education_frontline)

連載1 「先生の「授業の考え方」が学校間格差を広げる」

～ICT活用以前の問題、学習観・授業観を転換せよ～

<https://toyokeizai.net/articles/-/445856>

### 【情報④】

東洋経済 education×ICT 関連

「教師が教える」から「子供が学ぶ」へ転換が必要な訳

～未来の世代が幸福に生きる為の教育に必要なこと～

東京大学名誉教授、白梅学園大学名誉学長 汐見稔幸氏

<https://toyokeizai.net/articles/-/446309>

### 【情報⑤】

東洋経済 education×ICT 関連

「管理しない」校長の改革、ESD で学校はどう変わる  
～まずは教職員が元気な学校づくりで持続可能に～  
横浜市立日枝小学校校長 住田昌治氏

<https://toyokeizai.net/articles/print-ict-edu/446225>

### 【情報⑥】

まいどなニュース (BRAVA 記事→それでもママは働く 未来と自分を信じて ワーママ・プレワーママ共感サイト)  
幼児教育で注目されている「非認知能力」

・・・数値化できない「生きる力」を伸ばすために、ママができること

<https://maidonews.jp/article/14402318>

### 【情報⑦】

エデュケーレ STAFF BLOG→保育者と保護者の交流しですが小学校・中学校の先生にとって役に立つ情報が  
指針・要領が変わった

さあ、これからが保育者の出番！

[http://ikuji-hoiku.net/educare\\_wp/staffblog/1853.html](http://ikuji-hoiku.net/educare_wp/staffblog/1853.html)

こうしたコラム的なものだけでなく、オンラインでの講演・対話等も最近増えてきています。教育関連や子育てのサイトもたくさんあります。私自身“エデュケーレ STAFF BLOG”や“BRAVA”といった保育や子育てのサイトに出会ったことで、「12年間+α」の学びと育ちの連続性を考える上でとても刺激を貰いました。私たちの「学び方」がこれから変わっていくのだろうと思います。

“みんなでラボろう”が、こうしたネットの中にある情報交換の場や、そうした情報を対話のベースにして視野を広めることができる場になったらいいなと思います。

そうしたことが「教えてもらう」ことから「自分から学ぶ」ことへの転換につながっていくんだろうと思います。

### 「学習する学校」(子ども・教員・親・地域で未来の学びを創造する)より

私たちは、準備ができていようとなかろうと、加速的に変容していく現代社会の中で、既にそうした世界へと移行しつつある。評者の中には「この趨勢は学校をもはや時代遅れのものとする」と言う人もいる。しかし、私たちは、逆こそ真実だと感じる。どんなに技術が進歩しても一どれだけタブレット PC が普及し、スマートフォンが高機能化しても一子どもたちは常に学ぶための安全な場を必要とするだろう。やがてより大きな世界の中で自らの好奇心に従って生きるために、その出発点となる場を必要とする。また、子ども時代を過ごす家庭から、仲間や大人から成る、より大きな社会へ移動する準備の場を常に必要とするだろう。

(文責：北本)